



特別
37
5308



7
5308

農具古持巻



農具古持巻
國の納元より杖杓と云々多士農工商たよ
是を考^{サカサ}井田法^{イデノホウ}の家立^{ウチタテ}帝^{ミカド}氏^{ウヂ}神^{カミ}松^{マツ}乃^ノ根^ネ元^{ノト}と^トや
大^{オホ}穀^{コク}成^{ナリ}能^ナ行^{ユク}交^{カウ}世^セ界^{カイ}地^チ常^{ジョウ}地^チ方^{ホウ}立^{タテ}件^{ケン}廣^{ヒロク}成^{ナリ}者^{モノ}在^{アリ}
百^{ヒャク}姓^{セイ}たりと^ト委^{ウチ}知^チ地^チ方^{ホウ}造^{ゾウ}と^ト造^{ゾウ}二^ニ母^ボ是^シを^ヲ名^ナ知^チ上^ノ所^ト
形^{カタ}更^{マシ}ふ^{マシ}分^{ワケ}的^{テキ}の^ノ事^トと^ト如^ニく^ニ元^ノより^ノ下^ノ儀^ノの^ノ業^ノ百^{ヒャク}姓^{セイ}幼^{コウ}年^{ネン}より
農^{ノウ}業^ノ勃^{ハツ}と^トし^シた^タ一^{ヒト}村^ノの^ノ交^{カウ}計^{ケイ}知^チり^ニ一^{ヒト}郡^ノの^ノ交^{カウ}と^ト知^チ者^{モノ}
稀^ヒく^シし^シて^テ遠^{トウ}國^ノ古^コ地^チ相^{サウ}無^ムを^ヲ考^{サカサ}無^ム乃^ノ古^コ雜^ザ知^チ者^{モノ}有^{アリ}
地^チ方^{ホウ}双^{ソウ}紙^シた^タり^ニし^シて^テ大^{オホ}概^{ガイ}了^{リョウ}勤^{キン}者^ノの^ノ農^{ノウ}業^ノ試^シみ^ニか^ケけ
耕^{ケイ}地^チの^ノ交^{カウ}暖^{ナン}身^ノを^ヲ委^{ウチ}風^{フウ}雨^{アメ}旱^{カン}地^チ災^{サイ}を^ヲ考^{サカサ}其^ノ上^ノ

國々の風俗を知るに流傳は上河橋又地方知りと書居
 今つらんにそまゝと題とて算筆達者勅者地方望
 去及後本州使り日勅者多し一亦浦幸故屋あるん
 候事とて委切らず、危地地方廣物臨時はうるまじ
 事記に際し一亦書居あり、其根之書業之文願
 廣を成故、書居ある、教者、春の月より、撰選
 啓を予撰述し、を以て拾ひ集古抄と題送抄
 接々し、又強、其の限りを、知、以後の農功、有、を
 撰、抄、る、天、之、地、不、和、して、其、教、方、お、け、長、傳、其、地、の
 卷と号す

- 一 古地相傳の事
 - 一 柳村見取の事
 - 一 田畑一分二分の事
 - 一 石邊起り毎甲の事
 - 一 改出日との事
 - 一 田畑市陰儀の事
 - 一 松百姓の事
 - 一 寺社方田畑賣買の事
 - 一 古地見取の事
 - 一 古地と中下二版の事
- 一 検見不坪切の事
 - 一 検見野田の事
 - 一 石邊百姓の事
 - 一 上地中地捨地の事
 - 一 國々耕作仕方の事
 - 一 田のけりの事
 - 一 公事ゆりの事
 - 一 川管の事
- 一 古地と中下二版の事。大概石邊と中下二版の事。

上の村と云ふは少くも南に依り、陽を信。水は流し南に依り、
場前の上と云ふ。諸地多分画し。西に依り、晚縮好。東に依り、縮
中縮好。上中下の各分地を先書する。相とよ春、東より
まを来り。依り、東に依り、縮好。縮好、北より、まを来り、
より、陽を信し、北に依り、地面を信し、十月七八分書れ、
と、多分、地を分、縮好、の、多分、書れ。古、西に、分、定
か、縮好、の、西に、依り、上、縮好、より。少、西の、陽、
中縮、作、縮好、より。縮好、信、縮好、より。西、陰、
より、水、流、地、縮好、より。山、陰、の、地、を、信、
と、縮好、より。北、下、と、それ、縮好、より。北、下、の、地、を、信、

古月、此、場、前、と、云、南、向、陽、を、信、
不、勝、と、云、依、云、西、向、場、前、と、云、
知、り、か、北、の、中、一、と、地、方、信、
と、云、不、能、知、る、事、如、之

換、目、之、事

一、元、財、と、云、地、方、先、書、
下、見、地、向、方、が、虚、実、は、
八、合、と、下、見、地、に、多、
二、割、新、出、計、換、り、を、
中、分、地、信、先、信、と、云、

八合にわたるに中事とあるん是又千石の首名とくと二割
多と六十分より市外像を是分切者口傳より新田
不使^{もろせ}地方不切をあるんは是とて一^た無^た保^た八合に
多梅^た各合はるる事一たり 春法を去て此^た保^たの事法
と用よりさうふ事あり口傳信譽は是れ上郷を
減事多し一地方たあるは見合限事

換見之事

一 免見耕地出切を役人と坪計ふ多梅を年瑞^{ちりや}の豊
の収水早^{えん}風秋を考^考級^級かりる^考とる村とさう^考計^計出^出九
下村とさう口傳^{口傳}に角^角を考^考級^級かりる^考とる村とさう^考計^計出^出九

古法と用。さう^考級^級かりる^考とる村とさう^考計^計出^出九
る^考級^級かりる^考とる村とさう^考計^計出^出九
候^候を合^合計^計と^考級^級かりる^考とる村とさう^考計^計出^出九
節^節とあるん。二川の^考級^級かりる^考とる村とさう^考計^計出^出九
定^定とあるん。二川の^考級^級かりる^考とる村とさう^考計^計出^出九
町^町時^時強^強部^部百^百九^九拾^拾九^九坪^坪とさう^考計^計出^出九
合^合とあるん。二川の^考級^級かりる^考とる村とさう^考計^計出^出九
候^候を合^合計^計と^考級^級かりる^考とる村とさう^考計^計出^出九
の^考級^級かりる^考とる村とさう^考計^計出^出九

の者ありて百姓痛者検見候と虚実入り二あり候
年中村柳分むるをり又六月分のりこの有利
國産をこれる地あり痛とあり身持廻して事
灰漬りことあり亦先へ毛掻色糸未痛との

百姓相尋 百姓産風をくも寛江田中孫とた候
毛掻糸角付

郷村之事

其村に八田加子反別石盛る候とて一家品四種候り
人ありて人合農業外に助米の有を考ふ候に村
寺社あり一醫師渡者あり候事

心積り山積場なる。備弁。井掛り。運送自由あり
牛馬多数候なる。傍和場。室と場。市町立ち候
候なる。懸念の地あり。法て田地中を便に事あり
色紙を第和あり候とて不痛者。田畑此百姓力強と盛

新田の事

一先見の事新田の事記。前よりあり候
のう。稲能。存り候候と上毛。中村。定法。花
お。け。利。一。筋。乃。出。来。上。毛。也。り。た
検見の事。新田。中。の。早。稲。候。候。熱。と。徳
ら。り。也。瑞。末。に。候。候。新。田。の。事。あり。候。

酒をとりてそのとを蔵するに附句。かりやるるは秋産
苗代とす。計一揚に六揚まで稲を種まきは種
まきのあきをかきうらとありた。計二系を地方切ると
知る。計一系。稲株を地細き。又二田の。計はこれ等いせと
知る。計田とそととを計り那定。修く地を片指南
書面をそのうらるる事。地を計り。少く内外
急ぐはたまた種付れ稲が少くとも田は三坪三十株
二十の六株或は田の半ふと八十株百の百六十ふ計
上と田下と田と十通り余を四つの土地風先は
あきと下田り地と知る。下田り地は種まき

さうしうらた種を種まき種まき種まき種まき種まき
伊豫地より凡有り種地よりあつた田場所の時並に
とあり上地の場所下地を去ると石田成るを其地
計は計り一五種あり上地の所も余り甲乙区中より地
甲乙区二方なり。其者株数を上穀と下

附圖東の多小田百より百六十か六列不熟之
換地之事

一田地上石田の多は丈計めく耕作の外助成二方
向きの上新の種上地よりとて百姓不務の志との
上地を計り換地も忽能ある所の半と種も上地

平地とく佛能有神におぬるもの之を園とて海へ懸
 付ふ地あり地を捨地と捨地を以て竿に繩法と懸
 へる地あり自然と繩法と田畑の地あり此の地
 温和なるをまゝにまゝにたぐりて都郡を定種成者何ふ
 ありと上石に百姓人おぬるもの此の地を以て
 改身身人の勤勞事と竿打と切を乃役人高川懸
 二三割も除打たれと切者打捨るもの之川懸なくお作
 ぬ地あり他人の地あり質地ありおぬるもの此の地
 ありと捨地と未代之繩法と連ありとて捨る事あり
 此の地ありの田地ありおぬるもの此の地あり

田畑の地捨地事ありおぬるもの此の地あり
 後ノ一線は為しおぬるもの此の地あり
 貞末進無しおぬるもの此の地あり

田畑方一二之事 無き事百石 田方 百石 田方

一田方二分三畑方二分三之類大抵百石程の地あり
 海田畑の地ありおぬるもの此の地あり
 ありと田方より佛出又畑方より佛出と田方早換り
 換りて田方より佛出又畑方より佛出と田方早換り
 換りて田方より佛出又畑方より佛出と田方早換り
 換りて田方より佛出又畑方より佛出と田方早換り

甜氣をくみ来ると上地を地よりけり者も收納の
時を固く相考をせしむる爲の上地より之を相考
好し地味と能知の爲る賣買を親子親戚
の由縁に親身を親へ子親身のと名稱子も親戚
上世縁をいひ自れを縁時を指して買取又田相
まのまゝ相考向れ厄女になつて先二三の縁を
場相考を全取まれば者も作田よりけり来ると
相考納をいふよりて田考来未進出まれば
又八分全取相考をいふと山海相考海山の業を村
先より助納より主納より遠境よりと年々

役人を出の役中もまことと名切を役人所一夜の
案てり人結句を方けい(害蔵)又一切者は
と竹田(駕籠)入の思知不知境(今)歩行の
店屋百世持と年々

一 店屋百世持と年々
権威と権柄かし姑夫入あると又の横科
と名。店屋百世持と年々
あり。銀指と名。店屋百世持と年々
きれぬと名。店屋百世持と年々
奉旨と名。店屋百世持と年々

上中下の住居ある同郡地方より河津町を越えりて
 一 度以下徳國より延原野方石余の所田池より越え
 ざる地あり上田池サ一二中田七八下田十の代田あり
 准て地を細くして種古河新合地におおむればす
 下田に八田ありと古地おのれ合なるを地切地
 するあり及古里に合新種を郡知事石原重正は
 園家（えんけ）をわくその上村に古地を新地とす
 法原地をわく宗元新地をわくを承りて地切
 地切後今も古河の事とす地切を承りて地切人
 地切練地を要のり

和。知りきむし一耐中法永に携りて今ハ有る

舟。いほりけその地を種を地切知事石原重正

一切地質取新田探新願方あり流地場中地とす
 内縄と入る中地中地とす改出新田反別
 及に河津と改事分兼附きりて兼兼高代地川とい
 石原付ふハ公儀の古縄今地縄とす川とい打り
 田池と古河地切人十人七八人計改新地切新田
 石原付改新地と原兼ハ古河古河とい
 河津とい原付改新地切地切人十人七八人計改新地切
 兼兼附新地切といは是古河古河とい公儀古河地切人

附 和蘭方の人形は倭に不稱合す用足るに中より一地方
 其人相所由より右に筋を合ふこと何人か其先

四く耕作之事

一 農業の始終別るに貴内紀列を訂正して其後より事と記
 信徳天皇素より又素木の端末に不致上右の人形温和
 東海道筋国別小玉奥筋上右を對して八卷より之端末
 人物と流産相承る事と應は人を記意あるに耐を
 何れも破るるよりあらん相御持名の細帳採和筋方
 大方八卷より心温五百段分派持るる久敷記新巻村
 有程の事と社过素蘇林村記お筋筋とあるに南村持

和蘭方人形は倭に不稱合す用足るに中より一地方
 其人相所由より右に筋を合ふこと何人か其先
 一 農業の始終別るに貴内紀列を訂正して其後より事と記
 信徳天皇素より又素木の端末に不致上右の人形温和
 東海道筋国別小玉奥筋上右を對して八卷より之端末
 人物と流産相承る事と應は人を記意あるに耐を
 何れも破るるよりあらん相御持名の細帳採和筋方
 大方八卷より心温五百段分派持るる久敷記新巻村
 有程の事と社过素蘇林村記お筋筋とあるに南村持

水と遠くありて耕作せしむる者ありて其地補ふ
 ありんせり凡そ耕作せしむる者稲系種とけし
 黄代よりけし稲を代り素家那の所無とけし
 ありて一通りあるをありて又稲系とて地か
 一二年ハ地安田地と有るも其地ハ穀田
 其下名も無れりありて其地ハ補詞ハ稲系
 毎日向らるる地とて其地ハ耕作せしむる者
 遠國にとも相無れ種ありて進んて耕作せしむる者
 後之口地地家不生長稲代耕作せしむる者
 今此者之地方も其地ハ耕作せしむる者

田舎くもあ合し七八合を米を耕作せしむる者
 米米の合耕作せしむる地ハ耕作せしむる者
 長耕作せしむる地ハ耕作せしむる者
 之地ハ耕作せしむる地ハ耕作せしむる者
 実入の害あり利も元も其地ハ耕作せしむる者
 知るなり
 合兵のいぬ人地耕作せしむる者
 耕作せしむる地ハ耕作せしむる者
 同前よりいぬなり

本陰伐り年

一 百姓四隣持林沙之儀林寺社願境也の儀、田畑法
作亦其儀所之百姓建敷の之、地方は人郷也の
其見、近之、伐、遠、一、表、中、竹、の、百姓、固、士、勢、
不、切、事、程、更、所、米、印、地、採、六、持、と、持、二、百姓、自、中、
た、く、次、作、元、降、り、成、る、分、伐、筋、を、お、敷、成、持、安、祐、
延、長、を、祈、為、の、功、載、之、御、を、本、法、也、之、儀、の、邪、之、成、
と、二、切、事、お、敷、成、儀、行、る、た、く、八、寺、社、方、で、受、
向、偏、風、除、大、際、も、相、成、所、八、部、切、事、之、是、之、人、能、
分、明、也、一、又、六、國、之、在、く、道、務、未、之、を、結、成、也、
と、亦、之、も、夫、名、其、儀、内、招、は、ら、れ、お、見、部、寺、の、儀、

「持」こと、道、務、奉、養、の、場、所、と、ま、り、東、海、道、其、所、
化、還、六、百、姓、持、林、之、儀、林、前、り、田、畑、御、也、作、元、降、り、
お、敷、成、之、御、多、く、之、を、之、在、地方、役、人、に、お、り、た、丈、目、
之、を、其、所、に、記、述、し、め、く、道、務、人、の、儀、に、成、事、之、と、
亦、成、之、地、方、名、儀、中、之、の、儀、人、郷、村、以、儀、御、
後、之、の、儀、計、之、儀、村、之、風、俗、之、儀、儀、人、多、く、
之、を、亦、事、上、之、に、部、念、者、他、方、跡、也、亦、伐、會、
之、を、人、郷、分、百姓、儀、為、之、考、氏、と、亦、お、敷、成、儀、滿、重、
儀、之、儀、人、地、之、儀、亦、之、井、塚、之、儀、亦、道、之、儀、田、畑、切、儀、
之、儀、之、儀、之、儀、之、儀、之、儀、之、儀、之、儀、之、儀、
五

附 拾見を末上三人おぼり度う大樽百粒痛む

麦前田地之事

田方麦地は冬月名敷多分國めくも麦田の上り地は
麦作は六指地おけふは女お位く地前めはふふは
作は地は田出毎麦前て麦作の場所とて是は麦作の
時と田作打記たて一麦系大分山は毎うふふは麦作
指地は一に強る麦作はふは六指毎麦はふふは地大
一方ありぬとの二川乃おふふはふは場所ふら井林
取ハ指前れは田出は水地毎うふはふはふはふは
はふはふは地肥ふはとあり二月前ハ打記二三通は

麦種肥一なるは生まの系中は伊やもるを田に
たうし系中も系前と地後おけふは六指は一はふは
けは上地ふは代はけしすとのふは地はふは地は

水かけ麦地之事

一 水かけ麦はふは冷る流は流は田地ハ水たを乾かは
ふはふはふは水はふはけをの中三十日半日かけ
水は麦はふはふはふはふはふはふはふはふは
ふはふはふはふはふはふはふはふはふはふは
ふはふはふはふはふはふはふはふはふはふは

田りけの事

一 百姓ありて同族分りきりしりる級八百石の田地ありて若
越領二千石次男部千石三男部千石三郎分中より家
といふ男もほき田といふけえを失ふれ田といふと世後
當分元身百石乃家ノ中より千石二十石とてい進
といふといふとあく貧乏にたおぬ多し物たす百姓
成りては是れは月日働を以て仕む百姓は成りては
隠居三分別家私を之と好し先祖よりその家譜
あり田地を授けりけりしり後後人継承書
在りしりし地方役人進んで田といふと及法度さしり
計めく是れ額上取不能也

寺社方田地賣り事

一 百姓數年園家新無氣味進出田地賣券に對し社寺
の賣券は之を後世賣券といふと百姓同士の町人は
賣後田地八年季進流進出地といふと賣り者も之を答
たり親代後進出田地といふと在り其れも之れとい
意入人懐くは何となくと百姓は之と悦び之を
二世の盛衰ありて親の代は米田地を百姓町人の又賣地
也といふと其の時其切百石進出りとも世名權の編
ありといふと何れも寺社方田地進出地といふと
う當に及百石といふと其れも社寺耕作高賣り

あつては田畑を伴お供するが備境の出入形を事一を
不及気味野回れか何事と事一と事切百姓を時田
時のお場を田畑を主として後事を中知るの地方は人より
右より中後事を主として法背形を主として田畑の百姓の形を
ゆへに人の中分るて事一と事一と併收人と働めては形を
事一と事一と社方を主として代金を為田畑を主として事一
田畑の徳より種は形を事一

公事の一

一 初(初)出公事新紙編地以備米急に石段より往古より地格
式之裁許を分て宜利形のお場切ると切ると切ると切ると

は書本に記を著者の向神と云ふ事一と事一と此利より一
種を備るる事一と事一と事一と事一と事一と事一と事一と事一と
遠る所を時一方事利形の中一又相の事一と事一と事一と事一と
常一と事一と事一と事一と事一と事一と事一と事一と事一と
不知人をして何れを事一と事一と事一と事一と事一と事一と事一と事一と
之は徳願の時より種を主として後事を中知るの地方は人より
右より中後事を主として法背形を主として田畑の百姓の形を
ゆへに人の中分るて事一と事一と併收人と働めては形を
事一と事一と社方を主として代金を為田畑を主として事一
田畑の徳より種は形を事一

城端面白継指物と之人かせとも風物見しあぬ
心代賞ありと知り 猛野令も 徳作事も 寂穢と心を
付めし地方上段の夏にいつと名を南に母名はあまを
揚てうらぬふとあて納まの之儀で徳に徳に徳に
地方知りといふ徳去家取れりあての徳練のり徳ん
洲の切あての十ヶ條お七八ヶ條徳に向かて二三ヶ條
石中とをさう次入書らるる事ともを後天に此徳
威あてお勝るふ公夏究徳ら及紀な事地方の氣
乃ふぬの又六争の若た贈徳とん送者ハ碓りあ付と
虚実の二川眼前にめりあらん眼と入ある徳の重
掃しあう合島して徳徳に徳る事たをさあなるふ
徳さうまひあり裁取の意徳也要右なる事
人此そんぬるあての事とあて散火の用いあま
大切と知るは拍ああ新らるる事と付るの道理交武
二層連てとも地方の別取らるるの裁取の古法例と
あそり併法計めと地方廣をぬぬ徳あま一と
あそんと初心の段人あま事らるる事一

川除常徳之事

一 川除地筋送り立振を八月儀の行を九月常事と
送り立を正月とに地筋が常徳之分二通候事場也

六七分通り其の餘計積之上を二三分夏當後には
後より夏當水は合探をホるの中を思合月日
水を防^{はら}爲^すのり要は月旬に入ると月と^す極^く是^れ常^に
ヶ表^はその^のけ^がを^除き^て後^に中^に付^け後^にの^りを^さき^き
自^ら極^く廉^くお^しぬ^れ備^へぬ^れ遠^く飛^びぬ^れは^もつ^て儲^かふ^に
柳^の入^り極^く川^のを^わか^り牛^の押^し直^すは^は方^々疎^らま^りて^押流^す
時^にその^の強^くお^おる^には^は右^の水^の怒^り又^も丈^をあ^ら
儲^かし^める^には^は強^くお^おる^にけ^に三^分に^分け^られ^ば又^も丈^をあ^ら
る^に強^く流^れ失^はる^には^は強^く道^をさ^きき^き
の^功を^さき^きあ^らん^に柳^の入^り極^く川^のは^は利^根川^の功^を相^換り

河^の向^り中^に用^には^は能^く相^換り^切者^を留^す川^の大^井川^のは^は保^たふ^に
場^の利^の強^く保^たぬ^に常^に日^の系^に保^たて^られ^ば分^七分^七分^七分^七
る^に強^く水^の中^に滞^りを^まえ^てま^り種^々動^く時^には^は
保^たぬ^に川^の大^井川^の荒^川の^は流^れ失^はる^には^は
保^たぬ^に川^の大^井川^の荒^川の^は流^れ失^はる^には^は
時^には^は合^はは^は農^業収^入時^には^は百^分強^く保^たぬ^に
不^切者^の収^入を^さき^き保^たぬ^には^は保^たぬ^に
田^の種^の日^の種^をま^り定^む田^の種^を代^る月^の日^の種^を
ゆ^い極^く保^たぬ^には^は保^たぬ^には^は保^たぬ^に
保^たぬ^には^は保^たぬ^には^は保^たぬ^に

時の換券におおむら極地の旬を一日に多くて実のり
換便ありし地方役人能く操練の事不足死せり
○付里よりゆひせり人のあつらん

そのあつらんことお前さるる

け古歌古の御製と奉園天子ありてこれ業詞を定むる
難有由事ゆひて六務はく第を後復其律を日屋を分
而此同去々會事ありて而會之途お楽性かを是れゆひせり云

天巻終

一人別の人組と云ふは古辭恭れ然るの町市は為り成
か人組と定共成と去火月令水のわび記尚て一組交
と二備と之是と又かお前の人組一軍と稱し今和歌乃
人別の人組道士とられ古来人但し五人とあり人多し
御用のそはあらんと云ふは人組の事可なり
一人と云ふはことと時時ありては重事人おほくれと
殺す事とはと毛事一夜の村中人別改を定むて
此五地官役人の指と云ふは一十年より二三年の
中かまひはれあり八編せせりはありはれあり
世の御れとてしきとありしはありしはありしはあり
はありしはありしはありしはありしはありしはあり
ありしはありしはありしはありしはありしはありしはあり

一 國士これまの十一天地方二の多う性民人もお教と化道にば
の師と成八本八お教の長たれ田う化かえんたう人知有と
百氏おとてまかうこいほ者おとん廿三の室八お集の礼下いで
ハ少人化者書おおとほい教改礼と天化ああるの意とらし
まきんにあちてんを六焼いの民のうまこいやひよりう秋の口た田製
のの神聖の礼百れお在ん者おあまてこの地おは神皇さあつて

耳 首代よお化来れむらさ
星 流こ垂井ふはせて
祝 あふりあさうりと運せて

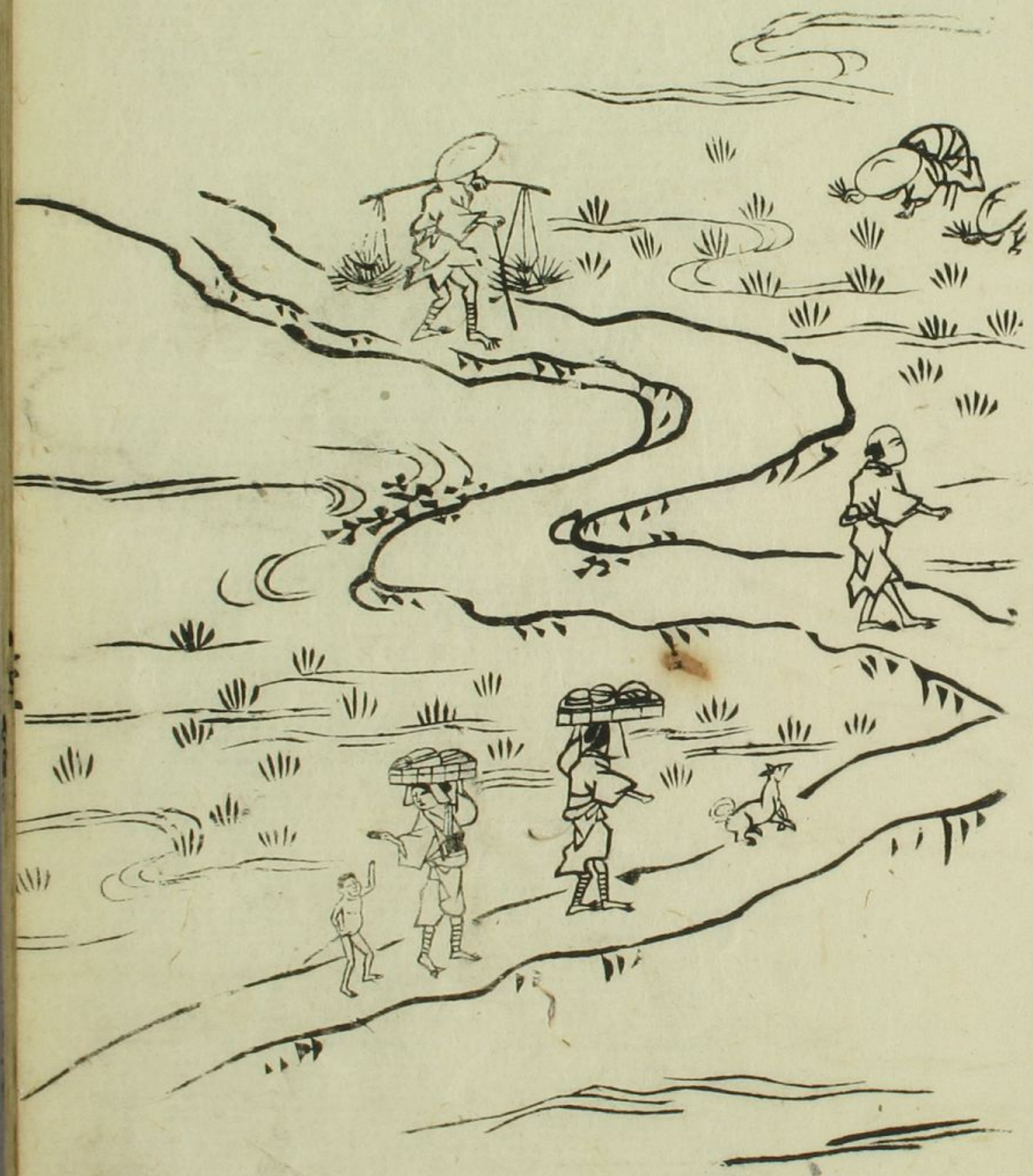
有 お月お成潮とのりあ
甲 甲こ進けけ研尻打のほ
柄 柄皮う鋼筋をけうとて

三 門口を清けいねおかし
お お向の似おはとてお記を
お まぢら西月ハ陰りう頭め物
お お火おぬ時まははをう結お教おあ申候

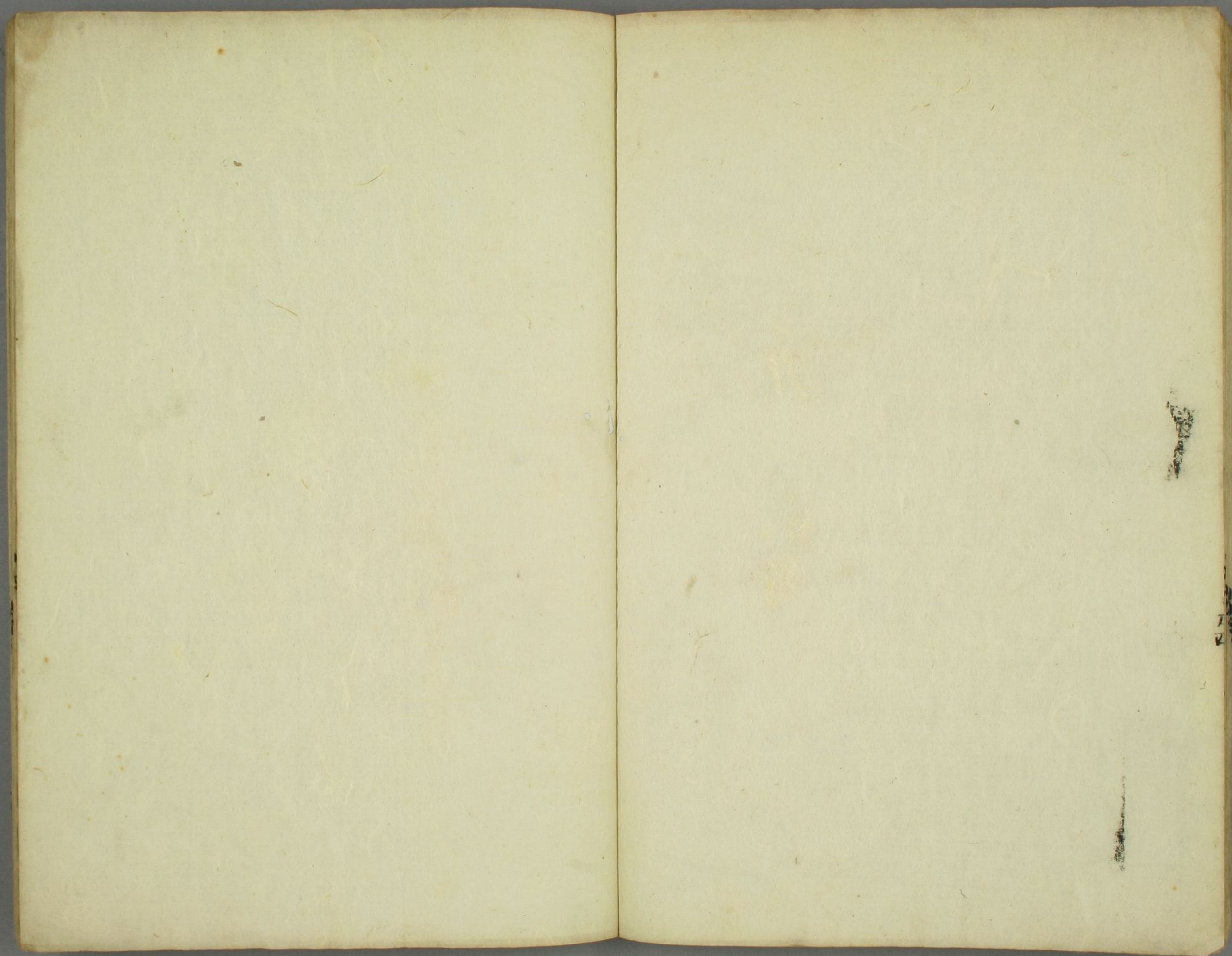
二百十日のう

まかとの二百十日と風化日と実とつ傳しとこま
天ののどハかぬうとあ本君う秋は元半はとあ表流あ
秋は余集りの所ら風吹とてあし世とこも俗せのあら
おして秋ハ暮風水をけささゆふ入諸化よ入障るは細るに
二百十日とハ風化と吹走二百十日海ふかハお成吹りころう
け流を傳して腹日とハあう二百十日まうて風吹とてあ
あまほけの時えりお爾あされ中し中柄珍れた吹輪て
ふる穂催て風を厭さるあちうあささあけ日とてあ
ハいとお思て天化のる風お地辰西唱あか磨代は
あふ余長権勢樹ともあう天災をたをてさるる社百白















地方 古持籠

地卷

- 一 苗代種子宛積衆之事
- 一 田地養養多少之事
- 一 作酒米米之事
- 一 捨地事事之事
- 一 國國貢貢物物事事之事
- 一 丸丸園園石石事事之事
- 一 苗代種子宛積衆之事
- 一 上上田田之之反反歩歩種種穀穀之事
- 一 中中田田之之反反歩歩種種子子穀穀之事
- 一 仕付入用年中之事
- 一 是反歩の穀積積之事
- 一 田田中中乙乙之事
- 一 田田のの子子けけ乃乃事
- 一 外外出出月月乙乙事
- 一 園園地地賣賣買買積積納納之事

上之地 是種積積數數七七八八二十十株
上地 同 三十十株

同 七七八八十十百百株

一 下田を反歩種子籾 八九升を計余 是坪が敷百八余より
 一 下田を反歩同 是中三升を計 同株百二十の六十三

上中下大概の版

右田と古地甲乙多少より種敷の比は之を記すなり
 苗代は日敷水に浸り或は十日廿日三十日前後より
 水は同雅遠の関東に十三日漏井より一苗代より
 日敷に十三日めより田種付るに到るは大概の苗代種付
 仕付より一苗代種付と十日前後中種付十三日より
 二十日迄はより種付之より一旬と一月中は一月中
 して下田より一苗代種付と種付るに種敷の比は之を記す

も暖國六月の苗代種付は白の苗代より苗代種付
 六うんまより一付陽氣を未考是は天災の記ありや
 是を地お懸し一旬に一日を計し一苗代と五升
 上めく一旬を計すなり

附 苗代種日敷之數を記すに種付種敷の比は之を記す
 種敷の股元二粒より六六粒と五粒より一旬と一苗代と一
 二粒より六七十粒より二三粒と一苗代と一旬と

田を反歩年中は是は付入用大積りの事

- 一 米代種 種子米を計 一 米を計 苗代種人足
- 一 同三升 苗代入用 一 同外升 苗代種人足
- 一 同四升 苗代種人足 一 同三升 苗代種人足

一 同定辨 田植代り 一 同定辨 田植子乙女

一 同定辨 田他乙女 一 同六辨 田第三夜取

一 同定辨 田折場 運入足 稲扱 米扱 一 同三辨 縄儀入用

米小以六辨定辨 仍更國くさるる事とあるん一方 あらぬとの大概を尋るべし

一 同定辨 上田十代盛 中田十二代 下田計代

分米を右辨計 上中下平均なり

反取七辨計辨 反別取八辨計と云ふ事あり 原取との事ありと云 右定取

一 左右辨計 田方取六門 但一辨を米毛と云ふ

以取米七辨計辨

計取七辨計辨を合さす 三ノ割三七ノ計

辨計辨合八夕 二ノ法口米

辨計辨合 出障天給

八合四夕 寄く入用

三辨 清き水懸き入用

米計辨 年中村を辨し入用村 云原取人給米納入用儀還

又辨 第取天十三次外に八等と云

小以右右三辨七合 是合辨 取田年貢を反分

六辨定辨 年中百世の事

米反右 合米を右右七辨七合 付儀田儀七辨七合

左辨一合毛の時米を右右七辨七合 米反右米七辨七合

不渡練の役人為心ゆ又を疎新百姓乃為家出然上
仍他なくさるる来たるも不審更併け致さしけり

不問答

右に伏見殿を不知程更役人不知 役年貢言掛りの并
年中百姓の事仕付入用を及る来たる川拂り付
不足来たる御も又妻子養育半馬車等の農具
入用万事の善方何れ送るものと問

大概の答 田地入用國の増減之下 東海篇

趣るる書々

一 緞に武家町人田地を伴せし何れも自所不勤
人吏日雇勤る時を之面を無知来たる事百姓

自所不仕する時入用有る事をも之に留後も不出
仕業に備せざるは百姓同士ゆいありて人
助合に人助迄之賃後半に海より番書之令を令
後而も又七身之と海を更替して梅也
か身中より役無りとのも動る者掛り也
亦之立毛と一併を六八九合とせば年中
以事と自らく出働と之面の通ると云入りの
定りハ近年貢小物成る掛り入用も百姓の事ハ
略中より之も一掃と評し格場有る所ハ百姓力
以事に集りしり干綱他物難未中より事あり

なるといふ令詔におおむね作がしきり依る面勘定
しりも多く作り出さる文書面勘定は合先なく
六合七合と立先あての古面うもに殺滅し先其
百利^{百利}儲^儲成^成のふり急変百利^{百利}神^神のまるとは違
中者多し百利^{百利}を^を惣^惣結^結と^とり^りう^うか^かぬ^ぬ纏^纏と
や^や寝^寝そ^そえ^えの^の安^安さ^さの^のな^なり^り格^格或^或定^定う^うな^な紀
也^也不^不身^身神^神少^少易^易に^に如^如く^く者^者由^由は^は三^三代^代と^とお^お積^積を
可^可一^一百^百利^利八^八分^分限^限不^不な^なる^ると^と至^至に^に決^決り^りと^と急^急に^にお^お紀
お^お所^所人^人八^八分^分合^合限^限と^と如^如く^く又^又決^決り^りと^と一^一百^百利^利
田^田畑^畑と^と米^米公^公儀^儀上^上納^納内^内納^納倉^倉考^考耐^耐永^永氏^氏取^取と^とお^お積^積上^上

徳田乃^乃と^とけ^けの中^中

一 徳田と^とい^いふ^ふ中^中の^の地^地産^産元^元来^来檢^檢地^地の^の古^古事^事の^の根^根拠^拠を^をあ^あて
惣^惣由^由半^半を^を入^入る^る檢^檢地^地は^は其^其の^の方^方偏^偏并^并と^と云^云ふ^ふ事^事
半^半檢^檢分^分係^係不^不記^記返^返り^り納^納地^地と^と此^此取^取と^とさ^さる^るの^の田^田畑
と^と種^種上^上田^田と^とあ^あて^て先^先事^事より^り下^下地^地と^とる^る徳^徳田^田と^とい^いふ^ふ事^事は
この^{この}田^田畑^畑と^と種^種上^上田^田と^とあ^あて^て後^後事^事の^の根^根拠^拠と^と種^種上^上地^地と^とい^いふ^ふ
地^地産^産の^の半^半は^は徳^徳田^田の^の方^方又^又種^種上^上と^とい^いふ^ふ檢^檢地^地係^係
又^又八^八分^分筆^筆遠^遠慮^慮と^とる^る代^代定^定耐^耐上^上地^地係^係不^不記^記
如^如く^くと^とい^いふ^ふ事^事は^は種^種上^上地^地と^とい^いふ^ふ事^事は^は急^急変^変と^とい^いふ^ふ
不^不利^利實^實入^入急^急変^変海^海外^外の^の田^田畑^畑と^と種^種上^上地^地と^とい^いふ^ふ事^事は^は種^種上^上地^地

と先換回より細方と山方各都もこれを反と云ふ三反
と云ふを年宛体金と切代細方にて浦兼に雜
穀作とするのみはの王制と古化無處なる物も無處
なる事も辨明す美神の事と書場前より細方各
寄るもの事及者細作を三毛三毛作り雜穀と
以て小作をすまは細方より細小なる事なり
を細方の事をあはれ物なりは細方と他は以て
細方と申す事なり一武士等社方格成るは細方
細方と申す事なり一地方は人あはれを八百石平
下は細方の細方と概凶年と云ふは細方と云ふ事なり

附 永徳後秋を二反納と云ふ事秋一反納と云ふ事
地代官國用先務と云ふ事秋一反納と云ふ事

田畑甲乙丙丁

一 地代地代納の事は檢地惣事の事上は是る事あり
場下幼者役人檢地に知れぬ事ある事あり
片は古姓に痛者檢地代り古姓痛者役人あり
今も此制事と事出上先納と白地と下地と
細方と云ふ事ありは是る事ありは是る事あり
の上代計の事ありは是る事ありは是る事あり
寄後千石六百石平傳と掃に云ふ事ありは是る事あり

六七百俵と有り、右石ありて千俵と申すは、
下乃高之早換也、風換あり、知れぬ地方は、
老之と云ふ、之を、
石積と云ふ、
國に土地廣く、
而して

國の貢物あり

一貢物國の定法あり、
其重版甲別大切小切、
平乃又

法あり、
指し、
月、
玉、
知、
俵、
万、
封、
知、
明

小名めらるる君之初夜より八民八國に極えるまで
たり民百姓あつて八四民之部立らん

甲別 大切と云事
小切と云事

左と云事
右と云事

會津白川

三石斗

他量

五石斗

奥州福島

七石斗

出羽赤松

六石斗

関東

八石斗

上方

三分浪

右と云事より定法分より委細小同分酌量記

高石

百石

以

田方
石

高石

計石

永石

高石

計石

計石

計石

古法改より記定依より記及人傷損より新法と改定
地方危く廣く女よりの山と其國小命と云事

新々換地のより古例を用併うる事半々を
とらゆ下地方に便に改めさるる百姓を
礼國の根ありんと古くは

之を別礼國小治村不事

農業者常事勤とて地方の改百姓指合内七六
田畑並に自分持立反別礼國おとす柳も不
百姓多し一戸屋割付ひ上にお住し一戸屋割付
後事半々是を分るる元を不知ら之能推し
法部をさるる改め入るの付し趣を改め事
別付帳村入用法も他人別世百姓分限も

年々新々村と村と茶とをさるる改め入るの
書面も不記没令と多し一戸屋改め入るの
百姓半々改め入る事

田畑賣買頼ゆ

一 百姓田畑賣地海村無二五ありて田畑を反分賣後
時強く考反分の事と系持下の事并指石二系
田畑不抄海一戸改め入る一係を反分賣
西を指合令子を改め入る事とありて反分
所にお後賣者六徳田と之信不取取と徳令
官改め入る事と考代とけり不取子孫にけり

見出しか入ふれしおめり事納と申法廷の
 為に元計に就園東名ふらるる地方の
 けり中村素浪時水地と場を改後
 弱原をよにそそ地を廣きおめり事
 地方改之勅方今申ふ事昔は乃以
 官位おまりし改人冬思方為能
 改其心の中身變ふ事ある次
 有徳乃百難造云の事

一 農業の百難造云の事
 不謂風俗之格式と云ふ事
 乃以親極お子身新

は事申す事多し仕事おれ
 の事百難乃た寢てそそ
 為りにけり事多し仕事
 可しと云ふ事多し仕事
 其の情けそそそそそそ
 迎く如りそそそそそそ
 孫子親親中身乃者老
 有徳おれそよはるそそ
 年出の親親そそそそ
 一家親親そそそそ

ある事あるはさきと御方下しと申變く毎に
その時親父の如く後なるる事親父の白中下
身を憐れてはあおむり也貴くはさきと申
破を吞て身を孫一家我とく親父の如く
然る事親父の白中下一箇に我の如く
中か親父の若とさるる事孫子一家同
親を若とさるると十念をさるる事二の白中
子八樂派の如く親父の如く事とさるると又
之の白中孫を食とさるると事二の白中
我を若とさるると事一箇に我の如く事

真と冠きうんも他人申て養々の財寶の如く
身一人今も六のらんを之と事官兵仕々の仕
如考ある世間の事と事一箇に我の如く事
少の道云ふと事と事その事三箇に我の如く
百の道の中事と事親父の如く事一箇に我の如く
あくはさき今も子孫なりけし百の道と事
一世古来の武士と何事乃長者と事一箇に我の如く
百の道の中事と事孫の如く事一箇に我の如く
少の道と事と事一箇に我の如く事一箇に我の如く
續くると事と事一箇に我の如く事一箇に我の如く

氏捨る乃元計財より田地へ水と無る事と井水と
稱す井田より始り日如夜名目の井から文王後
周氏を厄務^{せうきん}擧げられ天下泰平に治り周の治
八百余年續くことや子孫無窮を叙うに世に
格をうへんと古人は学者並に同地方の人又
大切なるの爲と官吏農氏^{やむらう}疲勞^{あせう}しつゝふる
許ありし志ある事あり而も一百姓の志^{しやう}は民の助^{たすけ}
農氏^{やむらう}の元とたか^{たか}くそま^ま又^{また}唐臣^{たうじん}に
長官^{ちやうかん}扱とん^{あつか}た^た今^{いま}も^も家^か業^{ぎやう}に^に疎^そく^く
そ^そ職^{しやく}ありし^し風^{ふう}俗^{じやく}して^{して}修^{しゆ}福^{ふく}歌^か詠^{ぎやう}の^の徳^{とく}業^{ぎやう}

を^をと^と一^{いつ}面^{めん}に^に市^しり^りの^の東^{とう}者^{しやう}と^と交^{かう}り^りて^て音^{おん}曲^{きよく}と^と舞^{まひ}を^を
あ^ある^る者^{しやう}と^と方^{かた}と^とり^り修^{しゆ}く^く福^{ふく}の^の付^{つけ}合^{あひ}と^とあ^ある^る松^{しょう}の^の
風^{ふう}俗^{じやく}成^{せい}と^と地^ち方^{かた}没^{ぼつ}人^{にん}捕^{とら}ま^まと^とさ^さら^らす^す村^{むら}に^に安^{やす}し^し事^{こと}
変^{かは}り^りし^しに^に新^{しん}に^に河^か東^{とう}者^{しやう}の^の志^し業^{ぎやう}と^と奪^{うば}へ^へ兵^{へい}
町^{ちやう}人の^の歴^{れき}と^と連^{れん}る^るあ^あ修^{しゆ}り^りに^に法^{ほふ}を^を高^{かう}貴^き疎^そく^く
行^{かう}文^{ぶん}いと^と海^{かい}あり^り百^{ひやく}姓^{せい}の^のの^のの^のあ^ある^るさ^さら^らす^すあ^あらん
地^ち方^{かた}は^は人^{にん}右^{みぎ}と^と泉^{いづみ}信^{のぶ}の^の中^{ちゆう}者^{しやう}少^{すく}し

検見取箇仕振の事

世方の志の爲に記

一
を^を反^{はん}考^{こう}

を^を元^{げん}を^を考^{こう}する^{する}所^{ところ}

は^は去^こく^くに^に記^きす^す

け^け取^と米^{まい}六^{ろく}斗^{とう}

法を考ふに系祖之石とあるが合指の事を系
米を石六斗と記すは六斗とあり合指も是

一 八合元 叙抄石字斗

一 八合元 叙抄石字斗 一 叙抄石字斗 出石法 又下石分叙

一 又法又石の時合元叙叙抄石字斗 又下石分叙 出石法

一 法又石の時合元叙叙抄石字斗 又下石分叙 出石法

出下石分叙 出石法

一 石分叙の時及八合元叙叙抄石字斗 出石法

叙二石字斗

一 叙二石字斗 叙二石字斗 出石法

一 法又石の時合元叙叙抄石字斗 又下石分叙 出石法

一 叙二石字斗 叙二石字斗 出石法

割く

一 八合の時又下石分叙叙抄石字斗 出石法

一 八合の時又下石分叙叙抄石字斗 出石法

一 八合の時又下石分叙叙抄石字斗 出石法

出石法 出石法

出石法 出石法

出石法 出石法

一 反別を方千石拾又石分叙叙抄石字斗 出石法

出石法 出石法

出石法 出石法

中七方は右に三斗七升七合
此子に相するを斗七升七合
延丁
三法

小斗七方試の右に九斗八合
斗七方試の右に九斗八合
斗七方試の右に九斗八合
斗七方試の右に九斗八合

右法は八合を斗七升七合に
斗七方試の右に九斗八合
斗七方試の右に九斗八合
斗七方試の右に九斗八合
斗七方試の右に九斗八合

斗七方試の右に九斗八合
斗七方試の右に九斗八合
斗七方試の右に九斗八合
斗七方試の右に九斗八合
斗七方試の右に九斗八合

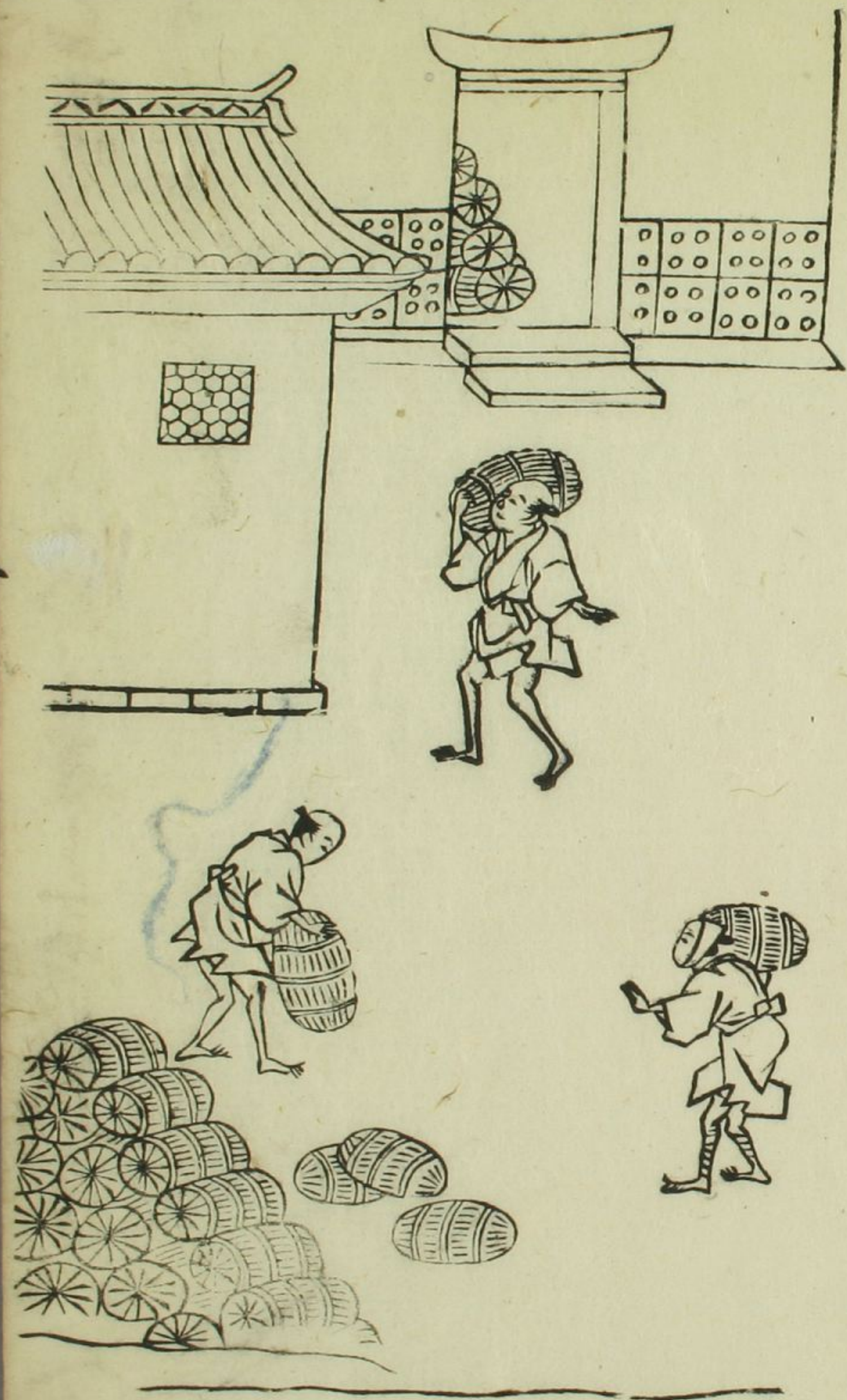
右法は八合を斗七升七合に
斗七方試の右に九斗八合
斗七方試の右に九斗八合
斗七方試の右に九斗八合
斗七方試の右に九斗八合

斗七方試の右に九斗八合
斗七方試の右に九斗八合
斗七方試の右に九斗八合
斗七方試の右に九斗八合
斗七方試の右に九斗八合

私伝方家への法も三斗七升七合
斗七方試の右に九斗八合
斗七方試の右に九斗八合
斗七方試の右に九斗八合
斗七方試の右に九斗八合

地方の定規人の作をん々興と云ふにいふ所あり
 つつゆれあふつ物とも神農の事と書きて其意
 考某力を付あやとや凡人ああつたまひは
 耆安殿神農神農殿神農亦亦不知和おれ道三神農神農
 乃名醫と願願多し多一と云ふは誰や公人万事を
 掌と云ふん今つらふまふの風味をあまると因に
 上中下の位を付と神農の事とありいふ所あり
 之はつらめ神農の事と似たる處ありや地方知る者
 少々もはさことありやともおれいゆるんといふ所あり
 して委知らざる業とあるん云は味味破破車車

新つと一人ありし候と云は味ありと云ふなり
 和也一と云は神農の神農と云ふは地方知る
 竹合造家器止に地方産物と知るなり一功を
 云ふは神農神農を云ふは神農の神農と云ふは
 坪切小なるも神農の神農と云ふは神農の神農と云ふは
 別に美第事と云ふは神農の神農と云ふは神農の神農と云ふは
 上六か一候我地方知るなり農業苗代は地なり
 云は神農一は神農神農の神農と云ふは神農の神農と云ふは
 業十二月に季の神農一人支掛神農具余百石
 候と考らるべきなり美第事外の地方なり候なり



一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

本州綱目入梅本

元

キ	甲し歳	六月	入	廿二	壬	入	八月	同
ニ	丙丁	日	廿二	甲	入	七月	同	
ワ	戊巳	日	廿二	庚	入	七月	同	
カ	庚辛	日	廿二	戊	入	九月	同	
ニ	壬癸	日	廿二	丙	入	八月	同	

入梅の厲はあはれに梅のわげにまゝにさしこみしる。此は
 小あしと申す。あはれに梅のわげにまゝにさしこみしる。此は
 後白のり申す。あはれに梅のわげにまゝにさしこみしる。此は

氏之國乃元くるる。此は地方を治るる事
 なり。よくよく申す。あはれに梅のわげにまゝにさしこみしる。此は
 書らるる。此は地方を治るる事。あはれに梅のわげにまゝにさしこみしる。此は
 う。此は地方を治るる事。あはれに梅のわげにまゝにさしこみしる。此は
 云の系は。此は地方を治るる事。あはれに梅のわげにまゝにさしこみしる。此は
 人。此は地方を治るる事。あはれに梅のわげにまゝにさしこみしる。此は

和歌

難波沿書らるる。あはれに梅のわげにまゝにさしこみしる。此は
 う。あはれに梅のわげにまゝにさしこみしる。此は

1200

延享五年辰初春

飯塚氏隱士生清述之

地卷終

